

Ⅲ 東のゲートウェイの創出

地下鉄の改札を出たところから名古屋城登城への第一歩が始まります。来城者が地上に出ると、そこには異空間が広がります。目の前には木戸番のいる大木戸が立ち、木戸をくぐると下町風の屋台から聞こえる威勢の良い掛け声や美味しそうな匂いが、名古屋城への入城を誘ってくれます。

東のゲートウェイは、市民の多くが入城する玄関口として、地下鉄改札から東門までを歴史の道として演出します。



■地下鉄市役所駅の出入口

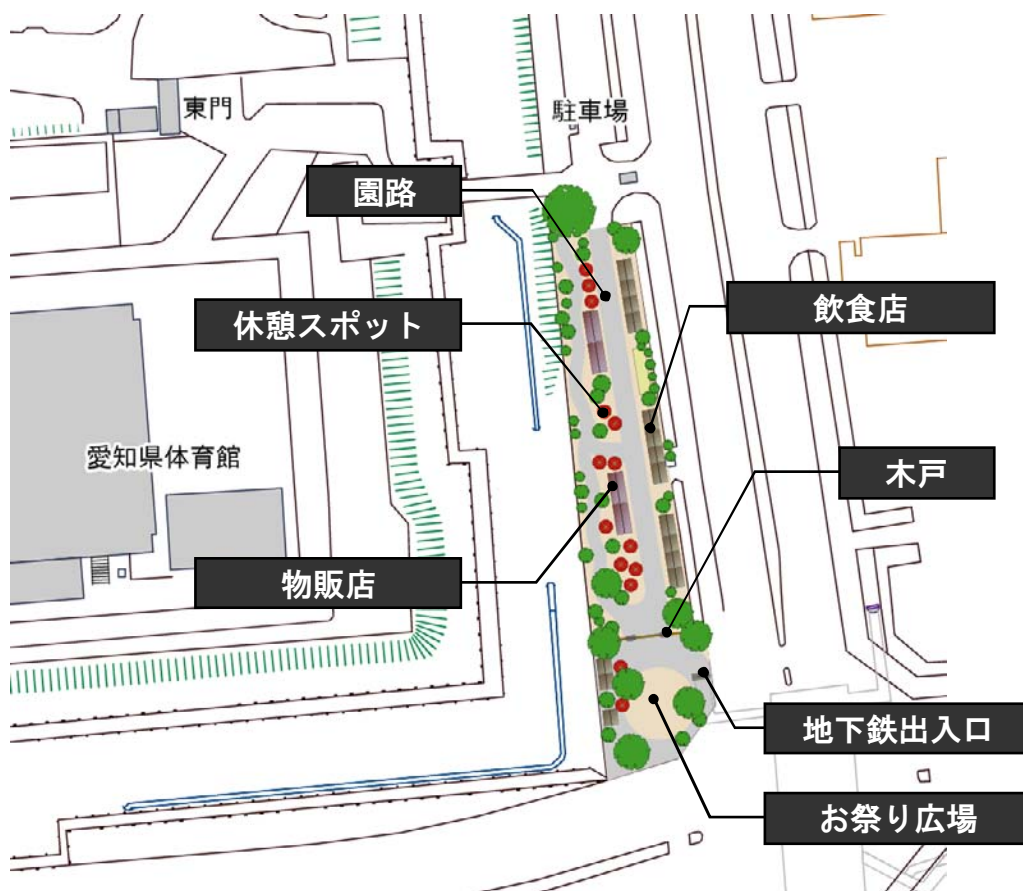
東のゲートとなる地下鉄出口周辺では、木戸の設置やお祭り広場での盛り上げイベントなどにより、入城への期待感を盛り上げる空間づくりを進めます。



■東駐車場での横丁展開

木戸をくぐり名古屋城入城までの通りでは、現在の駐車場である空間を活用し、屋台や土産物屋が建ち並び、にぎわいのある下町の風情が感じられる横丁づくりを進めます。

■東のゲートウェイの創出（施設展開イメージ）



[地下鉄出入口付近（現状）]



[東駐車場（現状）]

参

能楽堂周辺の空間活用

高木の緑豊かな空間の中にある能楽堂周辺は、都会の喧騒を忘れさせる市民や観光客などの憩いの場として、また名古屋城の西のゲートとして、歴史を背に感じながら誰もが気軽に憩い、休息できる空間づくりを目指します。



■能楽堂の南広場

西のゲートとして、既設の加藤清正像、篠島から移設した矢穴石など名古屋城ゆかりの歴史要素を配し、天守閣と能楽堂を背景にした歴史を感じつつ、市民や観光客が憩う空間づくりを進めます。

そこでは四季に応じた軽飲食も楽しむことができます。



[南広場の加藤清正像（現状）]



[能楽堂前の噴水（現状）]

四 回遊性のある利用者動線

名古屋城の正門から東門までの間において、「駕籠」や「人力車」など昔ながらの風情のある乗り物を提供し、歴史的風情を壊すことなく、気軽に回遊でき散策を楽しめるよう工夫します。また、電動カートなどの補助移動手段の検討も進めます。



[駕籠 (イメージ)]



[人力車 (イメージ)]

五 本町通のにぎわいづくり

名古屋城から南に延びるメインストリートとして江戸時代より栄えた本町通においては、その時代に名古屋三大祭と呼ばれた東照宮祭などや現在行われている名古屋まつり、春姫道中などと連携を図りながら、山車祭りの復活などによる本町通りのにぎわいの再現に向けての雰囲気づくりを行います。



[春姫道中]



[東照宮祭の名残を残す山車]